

第2章 大網白里町の現状

第1節 少子化の動向

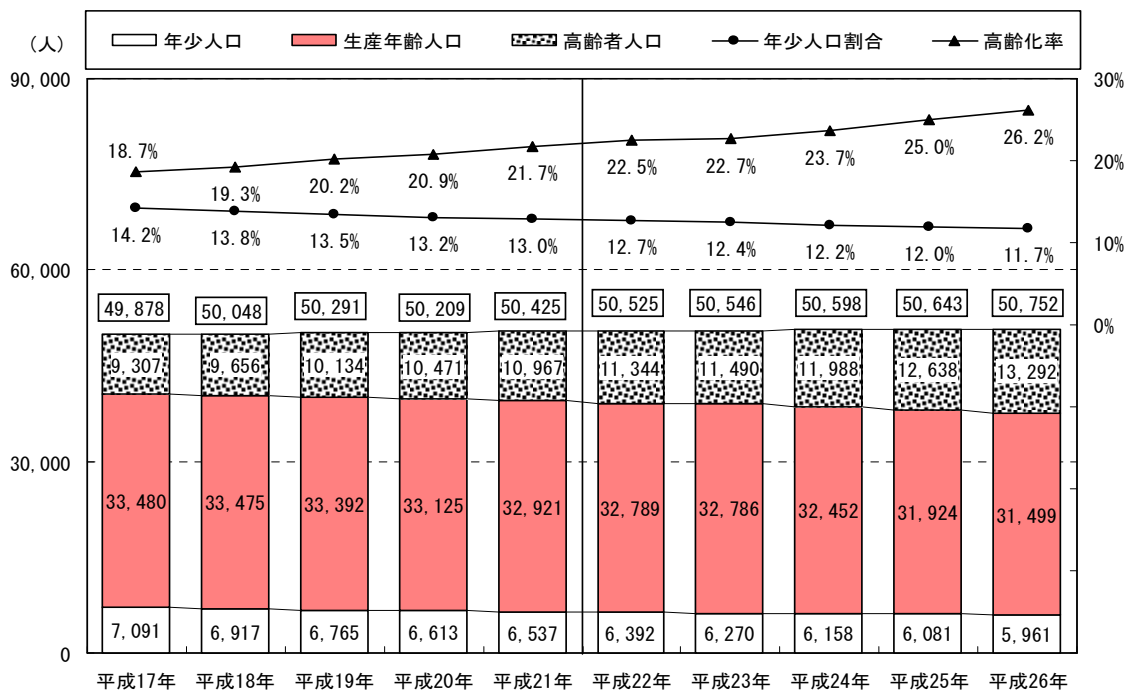
1 人口の推移と推計

本町の近年の総人口は、微増傾向となっています。

平成22年から平成26年までの人口推計結果をみると、総人口は引き続き微増傾向を示し、平成26年の総人口は約50,700人になると予測されています。

しかし、生産年齢人口(15歳以上65歳未満)の減少に伴って、年少人口(15歳未満)は減少すると予測されます。一方高齢者人口(65歳以上)は増加傾向となっており、平成26年時点で総人口に対する割合では、年少人口割合が11.7%、高齢者人口割合がその約2倍にあたる26.2%程度になり、より一層、少子高齢化が進むと予測されます。

■総人口などの推移



資料:平成21年までは住民基本台帳 各年4月1日実績値

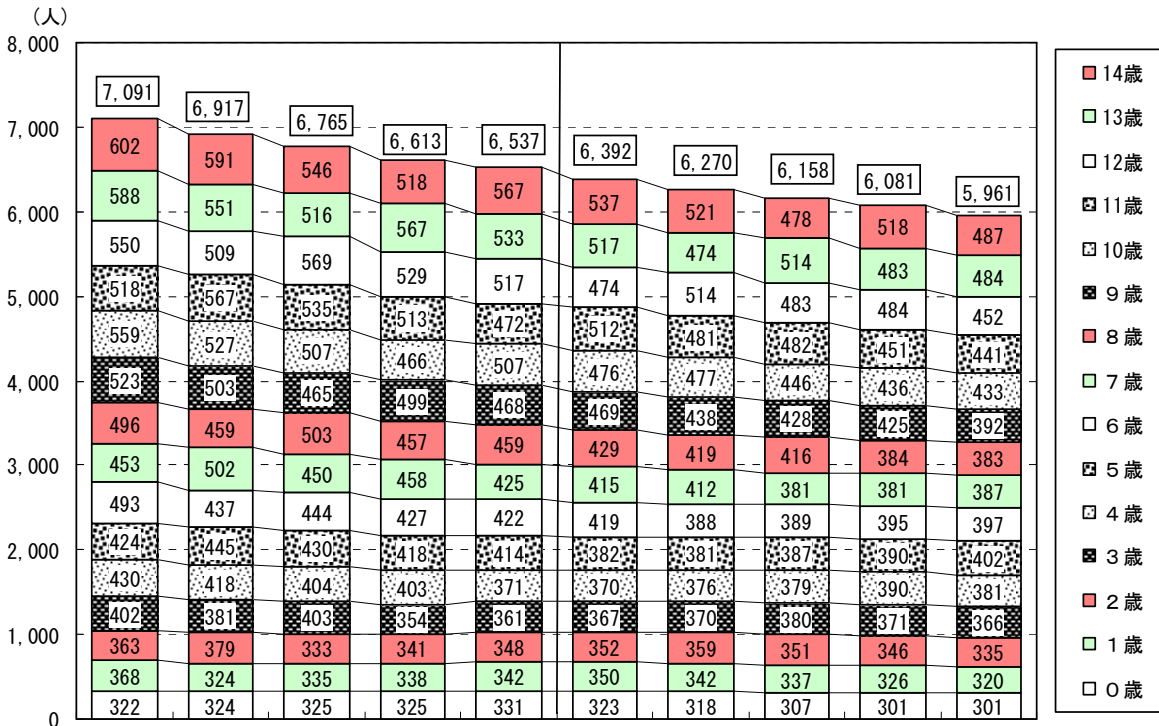
資料:平成22年以降は平成17年から平成21年の住民基本台帳人口を基にしたコーホート変化率法による人口推計値

2 年少人口の推移と推計

0～14歳までの年少人口の推移では、平成17年の7,091人から平成21年には6,537人と4年間で554人（7.8%）減少しています。

平成22年から平成26年までの年少人口の推計結果でも引き続き減少傾向が続くと予測されます。

■ 年少人口の推移



平成17年 平成18年 平成19年 平成20年 平成21年 平成22年 平成23年 平成24年 平成25年 平成26年

資料：平成21年までは住民基本台帳 各年4月1日実績値

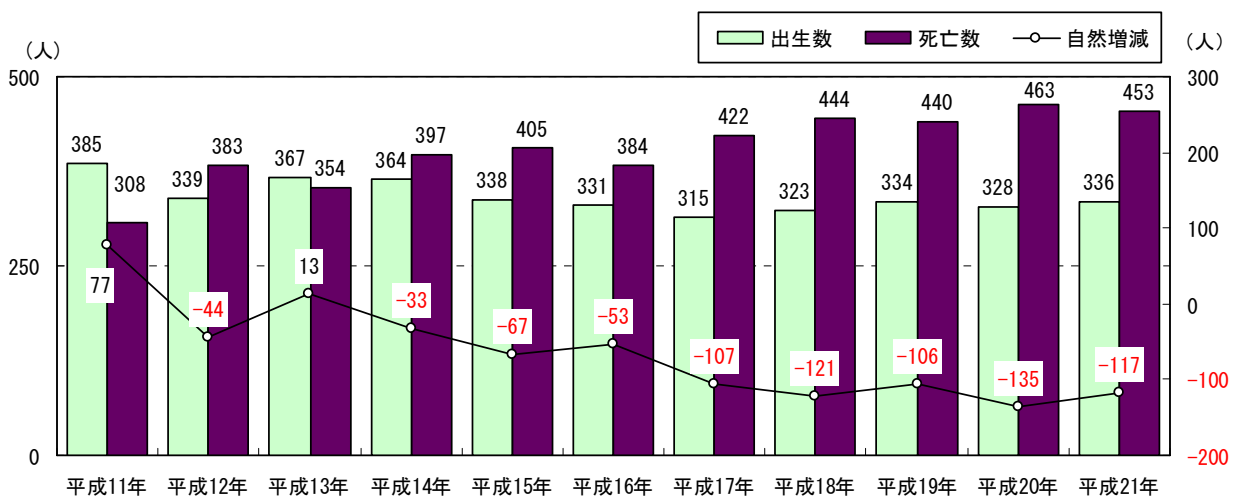
資料：平成22年以降は平成17年から平成21年の住民基本台帳人口を基にしたコーホート変化率法による人口推計値

3 人口動態の推移

出生数と死亡数の動向では、平成14年以降、死亡数が出生数を上回って推移しており、その差である自然増減は減少傾向となっています。

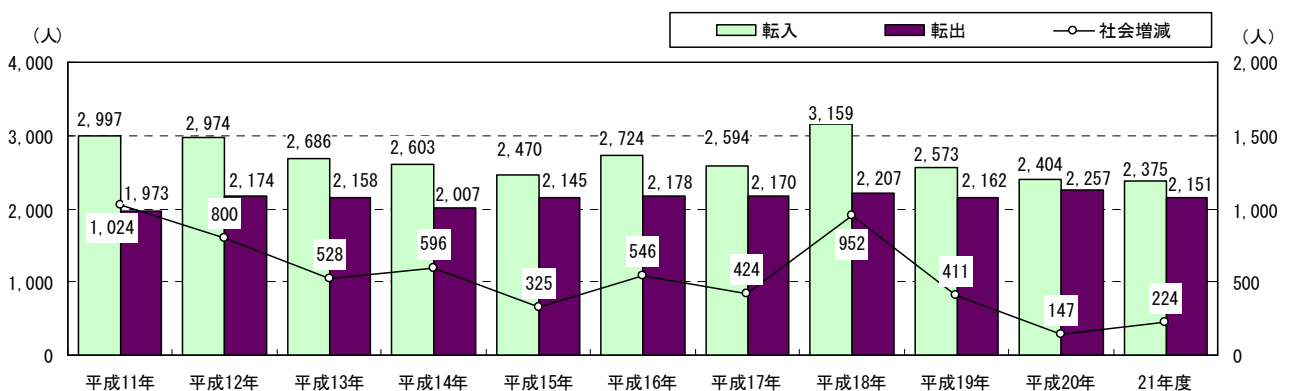
一方、転入と転出の動向では、転入が転出を上回り、その差である社会増減はプラスで推移しています。平成13年以降は、増減幅は小さくなり、横ばい状態で推移しています。

■自然動態の推移



資料：平成21年度版 データ大網白里町 各年1月1日現在

■社会動態の推移

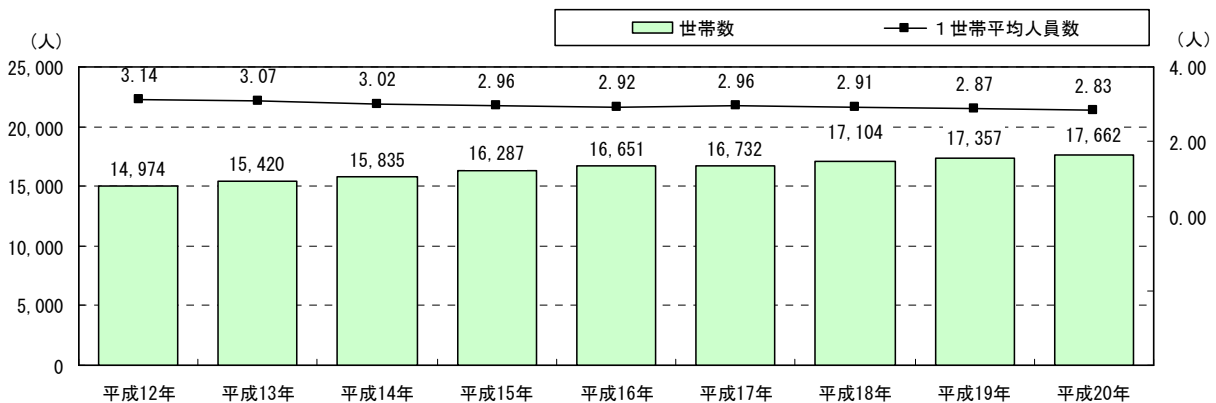


資料：平成21年度版 データ大網白里町 各年1月1日現在

4 世帯数の推移

本町の世帯数は増加しており、平成18年に17,000世帯を超え、平成20年には17,662世帯となっています。平成12年から平成20年までに2,688世帯の増加となっていますが、1世帯当たりの平均人員数は年々減少し、平成20年には2.83人と核家族化が進行しています。

■世帯数の推移



資料：平成21年度版 データ大網白里町 各年10月1日現在

また、一般世帯に占める18歳未満の児童がいる世帯の割合では、県を上回っていますが、ともに減少傾向を示しています。一方、一般世帯に占める18歳未満の児童がいるひとり親（母子・父子世帯）の割合は、県を上回って推移しており、ともに上昇傾向となっています。

■母子・父子世帯の推移

単位：世帯

区分	大網白里町		千葉県	
	平成12年	平成17年	平成12年	平成17年
一般世帯	14,962	16,382	2,164,117	2,304,321
一般世帯に占める18歳未満の児童がいる一般世帯	5,454 (36.5%)	5,119 (31.2%)	490,545 (28.6%)	595,600 (25.8%)
一般世帯に占める18歳未満の児童がいる母子世帯	146 (1.0%)	190 (1.2%)	21,633 (1.0%)	26,009 (1.1%)
一般世帯に占める18歳未満の児童がいる父子世帯	26 (0.17%)	34 (0.21%)	3,509 (0.16%)	3,736 (0.16%)

資料：国勢調査

5 婚姻・離婚の推移

婚姻率は年々減少傾向で、平成20年では4.2件となっていますが、千葉県全体に比べて1.80件低い状況です。

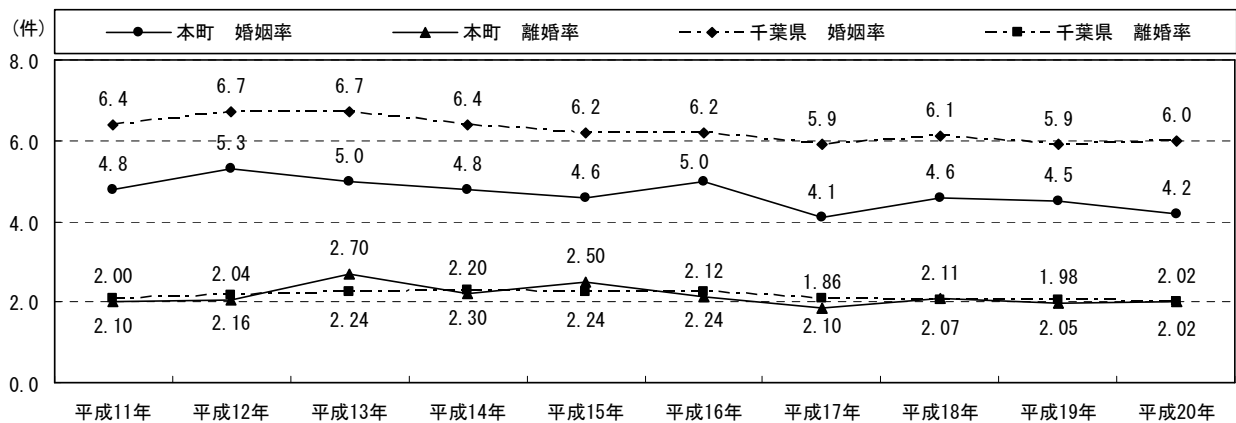
一方、離婚件数は千葉県全体と比べて大きな差異は見られません。

■本町の婚姻・離婚件数の推移

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
婚姻	248	237	231	221	243	205	228	226	211
離婚	96	128	105	120	103	92	105	99	101

資料：平成21年度版 データ大網白里町 各年10月1日現在

■婚姻・離婚の推移（人口1,000人当たりの件数）



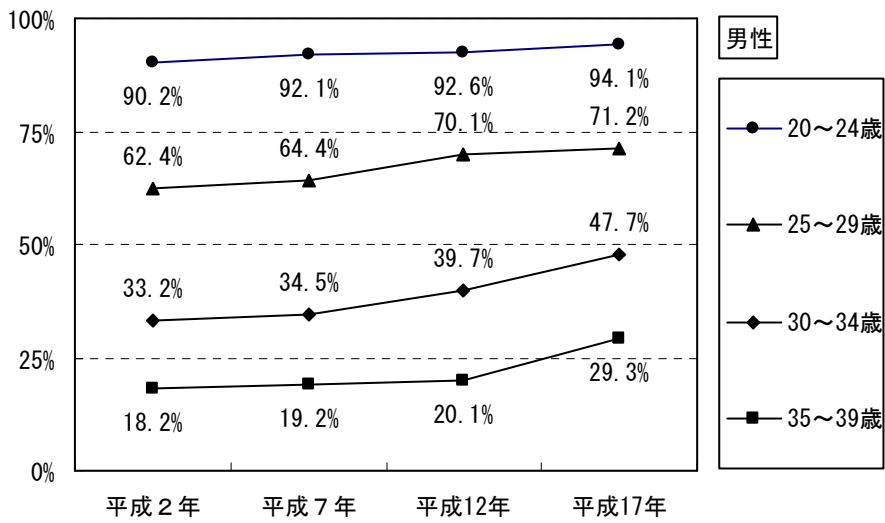
資料：平成21年度版 データ大網白里町 各年10月1日現在

6 未婚率の推移

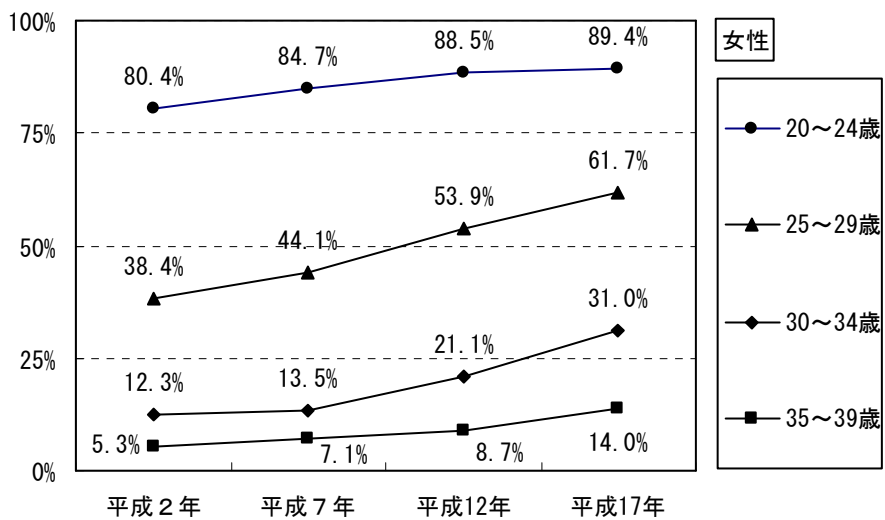
未婚率では、全年齢が上昇傾向にあることがうかがえます。

特に、女性の25～29歳の未婚率の上昇が大きく、平成2年の38.4%から、平成17年の61.7%と23.3ポイントも増加しており、晩婚化の現れであると懸念されます。

■未婚率の推移



資料：国勢調査



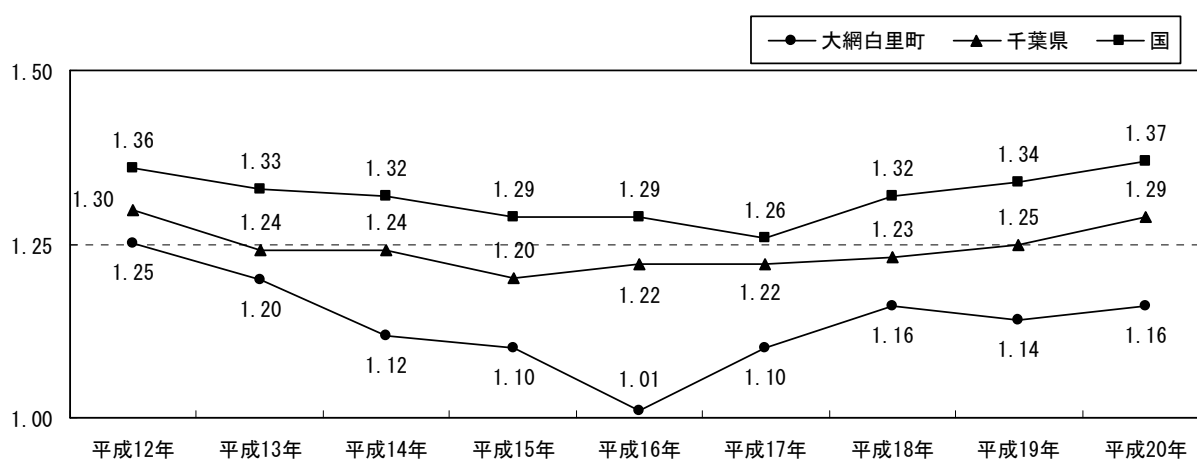
資料：国勢調査

7 合計特殊出生率の推移

1人の女性が生涯に産むと仮定した子どもの数を示す合計特殊出生率では、本町は平成12年から平成16年まで減少傾向、平成17年から増加傾向に向かっていますが、国、千葉県の値より下回って推移しています。

また、人口を維持するのに必要とされる2.08という数値を大きく下回っていることが分かります。

■ 合計特殊出生率の推移



資料：千葉県市町村別 合計特殊出生率

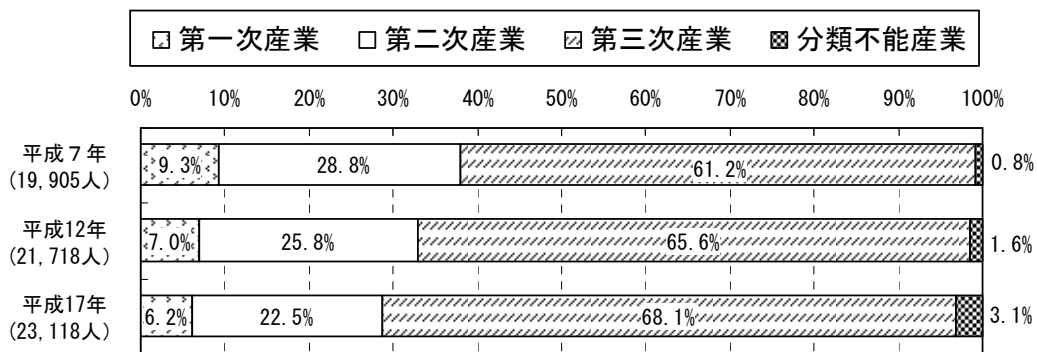
* 平成16年までは、分母に総企画部統計課作成「千葉県年齢別・町丁別人口」の「第2表 年齢（5歳階級、各歳）別、男女別人口」を使用。

* 平成17年以降は、分母に総務省自治行政局作成「住民基本台帳人口要覧」を使用。

8 産業別就業者割合の推移

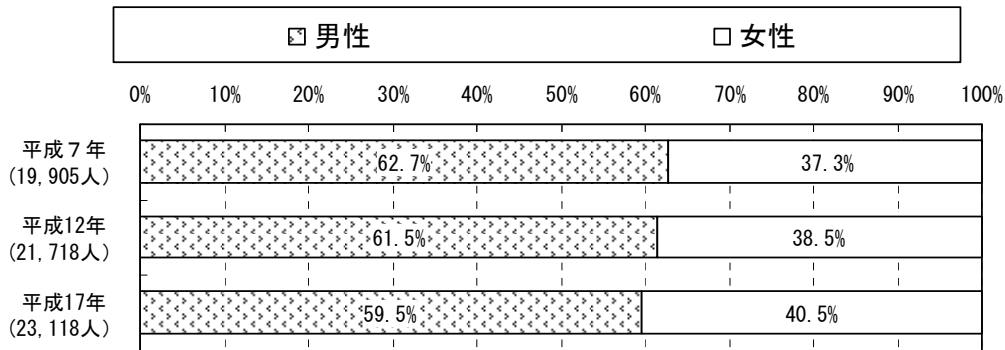
本町の産業別就業者数は平成7年の19,905人から平成21年には23,118人に増加しています。産業別就業者割合の全体推移では、第一次及び第二次産業就業者の割合が低下し、第三次産業の割合が高くなっています。就業者の男女比は平成7年から平成17年にかけて若干高くなったものの、男性が60%を占めています。

■産業別就業者割合の全体推移



資料：国勢調査

■就業者の男女比



資料：国勢調査

第2節 子育て支援施策の状況

1 保育所の状況

保育所は、公営3施設、民営2施設の合計5施設となっています。平成21年度現在の入所児童数は、444人となっています。

■保育所数の推移

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
公営の保育所数	3	3	3	3	3	3
私営の保育所数	2	2	2	2	2	2
合 計	5	5	5	5	5	5

資料：社会福祉児童課 4月1日現在

■入所児童数の推移

	定 員 (人)			入所児童数 (人)		
	総 数	公 営	私 営	総 数	公 営	私 営
平成16年度	462	280	182	438	255	183
平成17年度	462	280	182	439	240	199
平成18年度	462	280	182	444	242	202
平成19年度	462	280	182	456	252	204
平成20年度	462	280	182	440	244	196
平成21年度	462	280	182	444	252	192

資料：社会福祉児童課 4月1日現在

■年齢別入所児童数の推移

	総数	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳
平成16年度	438	14	45	64	95	109	111
平成17年度	439	15	50	65	91	107	111
平成18年度	444	12	56	64	96	107	109
平成19年度	456	21	45	77	90	117	106
平成20年度	440	12	41	69	101	95	122
平成21年度	444	12	53	69	98	108	104

資料：社会福祉児童課 4月1日現在

2 幼稚園の状況

幼稚園における入園児童数は、年々減少傾向にあります。平成16年度の558人から平成21年度の388人と5年間で170人（39.4%）減少しています。

■幼稚園数及び入園児童数の推移

		平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	
幼稚園の状況	施設数（か所）	4	4	4	4	4	4	
	定員（人）	720	720	610	610	610	610	
	入園児童数	合計	558	525	480	438	402	388
		3歳児（人）	125	123	106	97	82	88
		4歳児（人）	195	200	166	158	156	138
		5歳児（人）	238	202	208	183	164	162

資料：管理課 5月1日現在

3 学童保育等の状況

平成21年度現在、公営学童保育が7か所、私立学童が3か所あります。公営、私立ともに総在籍児童数は増加傾向にあります。

■公営学童保育の実施状況

	平成16年度	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学童保育数（か所）	4	6	7	7	7	7
総在籍児童数（人）	83	106	107	160	197	226

資料：社会福祉児童課 4月1日現在

■私立学童保育の実施状況

	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
学童保育数（か所）	1	3	3	3
総在籍児童数（人）	3	115	142	140

※一時利用、長期休暇のみ利用者を含む。

資料：社会福祉児童課 4月1日現在

■学童保育設置状況

学童保育名称		所在地
公 営	増穂学童保育室	北飯塚 281
	白里学童保育室	南今泉 3344
	季美の森学童保育室	季美の森南 1-28
	瑞穂学童保育室	永田 1055
	大網学童保育室	大網 317
	大網東学童保育室	富田 32-2
	増穂北学童保育室	上貝塚 317
私 立	特定非営利活動法人大里学童 KBA スクール	みやこ野 2-3-1
	フリー&アフタースクールぬく森くらぶ	南飯塚 478-3
	NPO 法人民間児童館 おおきなかぶ学童保育	みずほ台 2-10-15

資料：社会福祉児童課

平成21年度現在、放課後子ども教室は4か所で開催しており、総在籍児童数は89人となっています。

■放課後子ども教室の実施状況

	平成19年度	平成20年度	平成21年度
放課後子ども教室数(か所)	2	4	4
総在籍者数(人)	40	80	89

資料:生涯学習課

■放課後子ども教室の設置状況

放課後子ども教室名称		所在地
公 営	増穂小学校放課後子ども教室	増穂小学校
	増穂北小学校放課後子ども教室	増穂北小学校
	大網東小学校放課後子ども教室	大網東小学校
	白里小学校放課後子ども教室	白里小学校

資料:生涯学習課

第3節 アンケート調査の現況

1 アンケート調査の概要

「次世代育成支援対策推進法」第8条に規定する市町村行動計画（前期計画）の見直し及び策定に当たり、子育て支援における仕事や生活の調和の実現や、親の就労と子どもの育成の両立を支える支援、子どもの健やかな育成を支えるサービスについて、現状と今後の施策の目標を把握することを目的として調査を行いました。

■配布状況

調査の種類	対象者数	抽出方法
就学前児童保護者調査	1,172人	0～5歳の児童を持つ保護者
小学生児童保護者調査	2,237人	小学生児童を持つ保護者
中高生	480人	町内在住、在学の中高生本人
一般住民	700人	町内在住の19歳～35歳の町民（無作為抽出）

■回収結果

調査の種類	回収数	回収率
就学前児童保護者調査	585件	49.9%
小学生児童保護者調査	1,865件	83.3%
中高生	398件	82.9%
一般住民	165件	23.6%

■分析・表示

- ・百分率は小数点第2位で四捨五入し、小数点第1位までを示しています。このため、単一回答（回答が1つだけのもの）の回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。
 - ・グラフ中の計は、その項目の回答者の実数であり、比率算出の基礎となっています。
 - ・回答比率は、その設問の回答者総数、あるいは分類別の回答数の総数をもとに算出しており、複数回答（2つ以上の回答が認められたもの）の設問の場合、回答比率の合計が100.0%にならない場合があります。
- ※ 調査票は設問の回答により他の設問へ誘導されたり、回答者を限定したりしていますが、万が一間違っただけで回答していても回答者のご意見を尊重するために、そのまま集計しています。従って、前後の設問で、整合性が保たれていない場合があります。

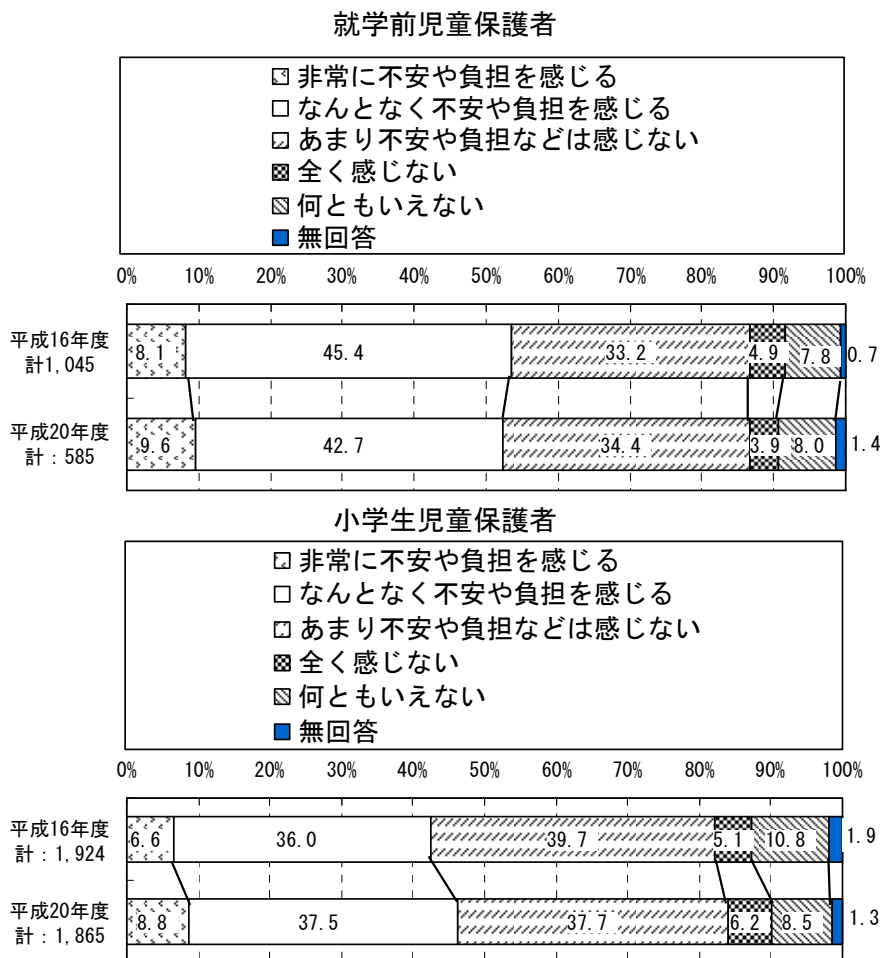
2 アンケート調査の結果からみる子育て家庭の現状

(1) 子育ての様子

○子育ての不安感・負担感

平成16年度に比べ就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに「非常に不安や負担を感じる」、「なんとなく不安や負担を感じる」と子育てに何かしら不安や負担を感じる割合が高くなっています。

■子育ての不安・負担感



(2) 悩みや相談の様子

○悩みの相談相手

就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに「配偶者・パートナー」、「その他の親族（親・兄弟姉妹など）」、「隣近所の人、地域の知人、友人」と回答した人が半数を超え、大半の人が身近な人に相談をしていることがうかがえます。

こうした相談相手が子育てに関する正しい知識を把握していなければなりませんので、相談相手となるこれらの人たちへの情報提供が必要になってきます。

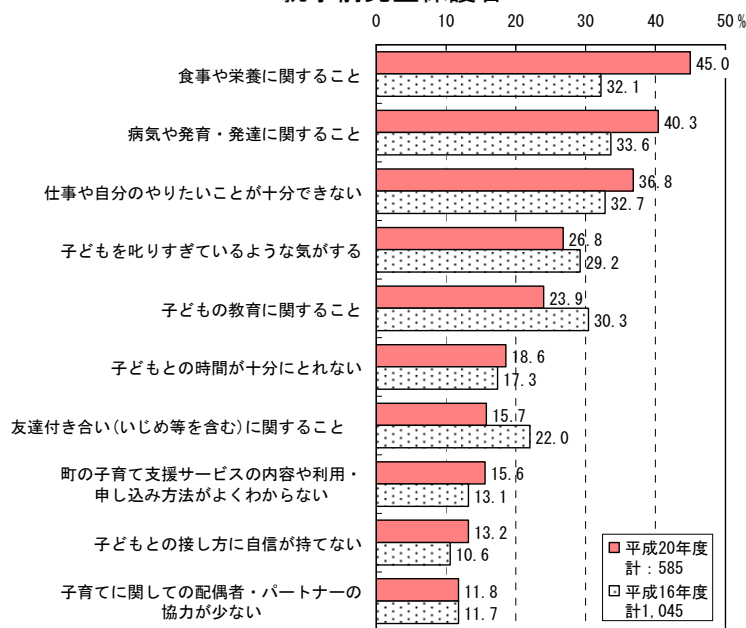
○子育てに関する日常の悩み

就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに平成16年度に比べると「食事や栄養に関すること」、「病気や発育・発達に関すること」など子どもの成長や発達に関わる悩みが高くなっています。就学前児童保護者では「仕事や自分のやりたいことが十分にできない」、や「子どもとの時間が十分にとれない」の割合が高くなっています。

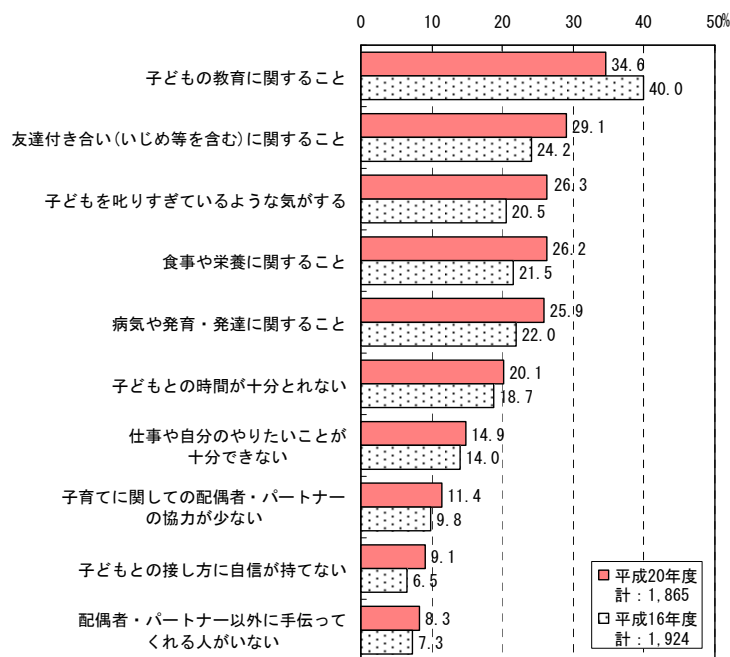
一方、小学生児童保護者では「友達付き合い(いじめ等含む)に関すること」、「子どもを叱りすぎているような気がする」などが高くなっています。

■子育てに関する日常の悩み(上位10項目を抜粋)

就学前児童保護者



小学生児童保護者

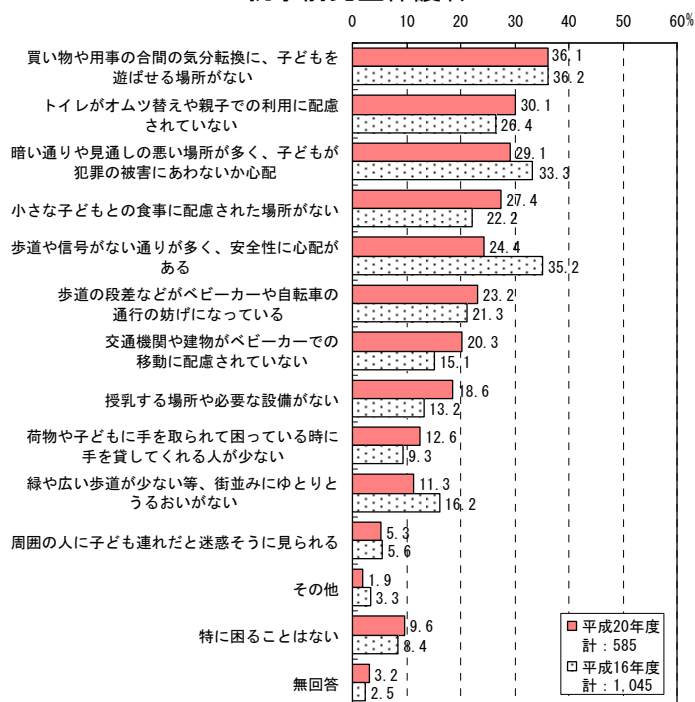


(3) 子どもと外出する際に困ること

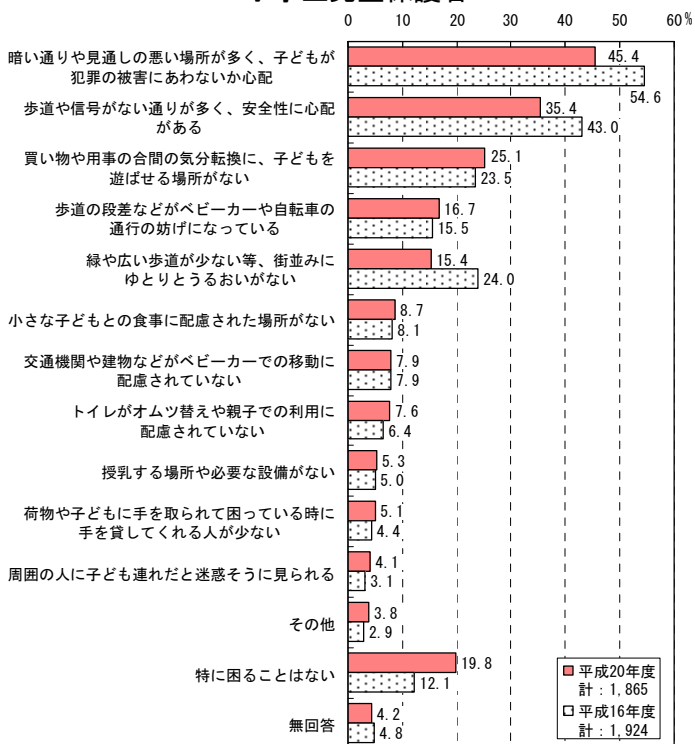
子どもと外出する際に困ることは、平成16年度に比べ就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに、「トイレがオムツ替えや親子での利用に配慮されていない」や「小さな子どもとの食事に配慮された場所がない」など子どもと一緒に利用するスペースの確保などに関する要望が高くなっています。

■子どもと外出して困ること

就学前児童保護者



小学生児童保護者

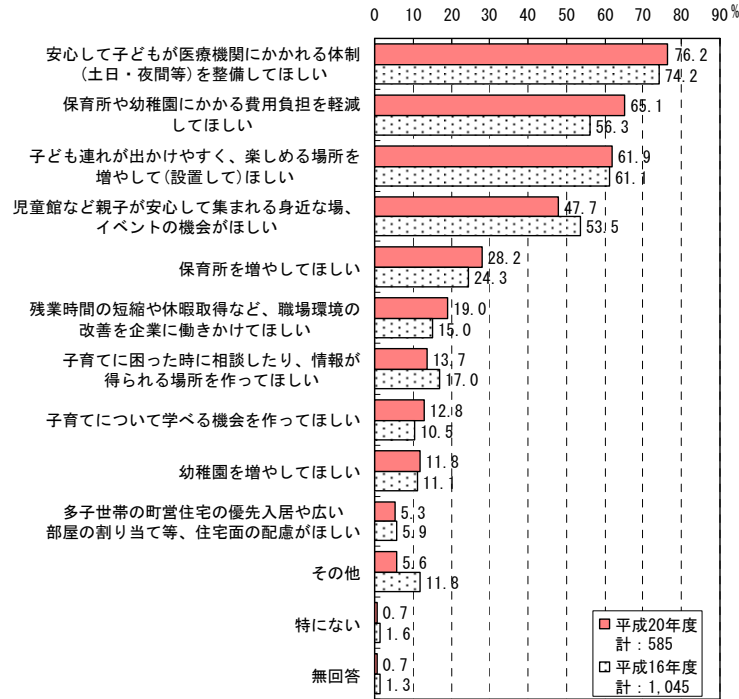


(4) 町に対して期待する子育て支援策

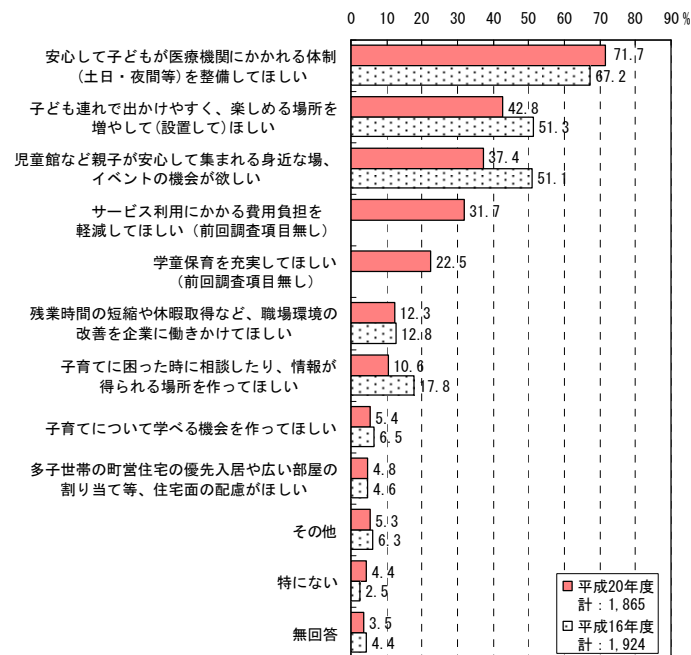
町に対して期待する子育て支援策は、就学前・小学生児童保護者ともに「安心して子どもが医療機関にかかる体制（土日・夜間等）を整備して欲しい」、「子ども連れでも出かけやすく楽しめる場所を増やして（設置して）欲しい」が上位を占めています。

■町に対して期待する子育て支援策

就学前児童保護者



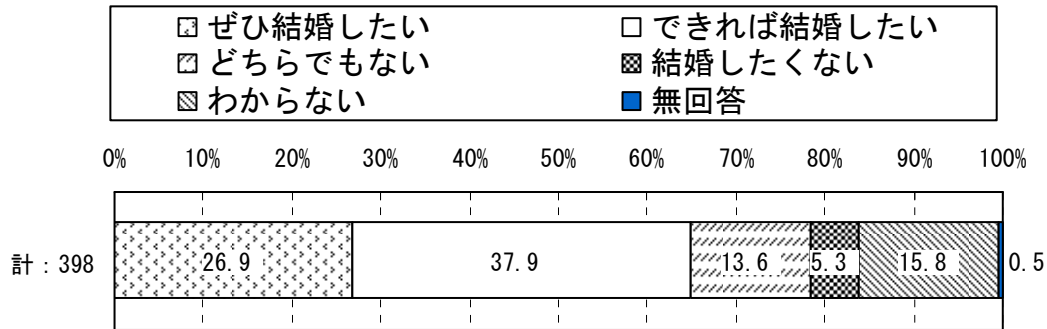
小学生児童保護者



(5) 結婚観

中高生の結婚に対しての考えでは、「ぜひ結婚したい」(26.9%)、「できるだけ結婚したい」(37.9%)を合わせて6割以上の人が結婚願望を持っていることがうかがえます。男女別では、女性は「ぜひ結婚したい」が27.1%と男性よりやや高く、男性は「どちらでもない」、「わからない」が高くなっています。

■ 中高生の結婚観



■ 中高生の結婚観と性別のクロス集計

単位：%

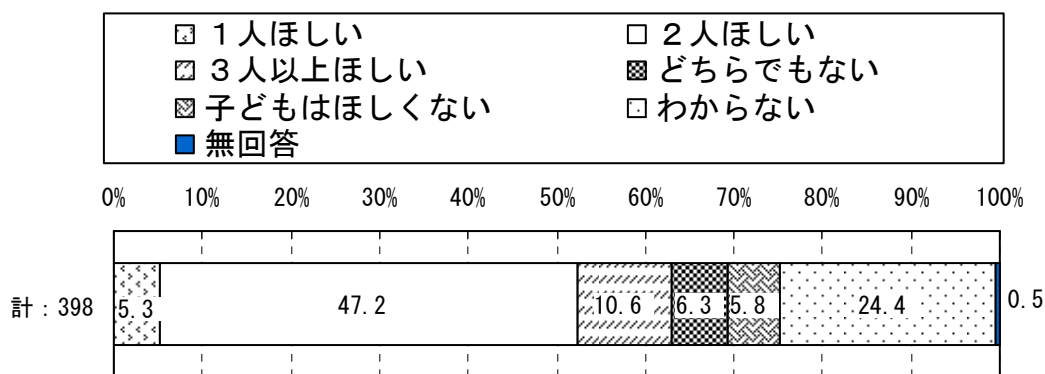
	合計	ぜひ結婚したい	できれば結婚したい	どちらでもない	結婚したくない	わからない	無回答
合計	398人	26.9	37.9	13.6	5.3	15.8	0.5
男	206人	26.7	36.9	15.0	3.9	16.5	1.0
女	181人	27.1	39.8	12.2	6.1	14.9	0.0

(6) 将来持ちたい子どもの人数

中高生に「将来子どもは何人ほしいか」をたずねたところ、「2人ほしい」が47.2%で最も多く、次いで「3人以上ほしい」となっています。

また、子どもを抱いた経験がある人は、抱いたことがないと回答した人よりも将来子どもを持ちたいという願望が高いことがうかがえます。

■将来持ちたい子どもの人数



■将来持ちたい子どもの人数と子どもを抱いた経験の有無のクロス集計

単位：%

	合計	1人ほしい	2人ほしい	3人以上ほしい	どちらでもない	子どもはほしくない	わからない	無回答
合計	398	5.3	47.2	10.6	6.3	5.8	24.4	0.5
抱いたことがある	246	3.7	55.3	12.2	4.9	3.7	20.3	0.0
抱いたことがない	146	7.5	35.6	7.5	8.9	9.6	30.1	0.7

第4節 前期計画の実施事業の達成状況

■特定14項目保育事業

区分		平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
通常保育事業（人）		439	444	456	440	444
休日保育事業（か所）		—	—	—	—	—
夜間保育事業（か所）		—	—	—	—	—
放課後児童健全育成事業（学童保育） （か所）		6	7	7	7	7
一時保育事業（か所）		1	1	1	1	1
特定保育事業（か所）		0	0	0	0	0
病児・病後児保育事業（か所）		0	0	0	0	0
子育て短期支援 事業（か所）	ショートステイ	0	0	0	0	0
	トワイライト ステイ	0	0	0	0	0
ファミリー・サポート・センター事業（か所）		0	0	0	0	0
子育て拠点支援 事業（か所）	センター型	1	1	1	1	1
	ひろば型	4	4	4	4	4
	児童館型	0	0	0	0	0

前期計画において、9つの基本方針のもとに位置づけられた100の施策・事業の達成度（平成17～21年度）を評価しています。施策・事業の達成度の取組状況から、子育て環境は向上しつつあると言えます。

■前期計画個別事業評価

基本施策		事業名	評価	
			A	B
子ども 学び育ち	子どもが人として 守られるための取り組み	児童虐待阻止と家庭問題への対応	3	
		子どもの心のケア	3	
		障害のある子どもの自立支援	2	
	子どもたちの健康・成長の確保・増進	健診・健康支援	10	
		食育活動	4	
		思春期保健の推進	5	
	生きる力と自立する力の育成	幼稚園教育	3	
		学校教育環境の向上	7	
		開かれた学校づくり	3	
		児童の健全育成と体験機会の拡充	8	
親 向かいあい子育て	親の子育て力の向上	家庭教育の推進	2	
		親育て活動	3	1
	安心できる妊娠・ 出産と育児への支援	母子の健康確保	6	
		発育と育児の支援	9	
		医療体制の周知等	2	
	ゆとりある子育て 環境づくり	保育サービス	4	
地域ぐるみ子育て		8	1	
地域 みつめて 育ち支援	子ども・子育てを 理解する地域づくり	子どもと子育てに関する啓発	2	
		仕事と家庭の両立支援	3	
	地域の子育て支援力・ 教育力の向上	地域づくり・人づくり活動	2	
		地域が関わる仕組みづくり	1	
	生活環境の整備	地域の安心活動	5	
		快適な居住環境	3	
合計			98	2

評価A：「概ね目標水準に達している」 評価B：「事業を未実施」

○施策・事業の達成度

施策・事業の達成度を2つの段階で評価したところ、98の施策・事業が目標を達成となりました。

達成度	施策・事業数	施策・事業名
概ね目標に達成している	98	児童虐待防止対策／母子家庭等の自立支援／多問題を持つ家庭への支援／不登校など問題への対応、立ち直り支援／ほか94事業
未実施	2	親子ふれあいコンサート ・親子ふれあいコンサートとしては実施していないが、親子で参加できる機会として、家庭教育学級等の他の事業で実施している。 多様な保育ニーズへの対応 ・家庭的保育事業やファミリー・サポート・センターなど事業については大網白里らしい手法の導入に向けて今後も継続して協議していく。

○アンケート調査による達成度の評価

平成16年度に比べ就学前児童保護者、小学生児童保護者ともに子育てに何かしら不安や負担を感じる割合が高くなっています。そのため、より一層の相談支援や子育て仲間が交流できる場の提供が求められています。

また、悩んでいることや町への要望では子どもの成長や医療が上位を占めていますが、「子どもとの時間を十分にとれないこと」、「残業時間の短縮や休暇の取得促進など企業に対して職場環境の改善を働きかけてほしい」といった声も大きくなりつつあります。「働き方の見直しの意識啓発」については、今回の後期計画策定において「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」として重点的に推し進めていくべき施策として国が提唱しているものであり、広報等による啓発とともに、セミナー開催や情報発信など積極的な施策展開が必要となっています。

第5節 後期計画に係わる課題

本町における現状や子育て支援に関するアンケート調査・地域協議会委員からの要望、前期計画からの課題を整理しました。

課題	
子育てについて	<ul style="list-style-type: none"> ●近隣関係の希薄化などによる育児の孤立化・不安の増大 ●女性の25歳～29歳の未婚率の上昇 ●協働による子育て支援 ●子育て家庭の孤立化の防止 ●保護者の多様化する悩み ●子育て仲間が気軽に交流できる場の拡大 ●身近な子育てのサポート ●子育て情報の充実 ●保育料などの経済的負担の軽減 ●保育所、幼稚園における連携
母子の健康について	<ul style="list-style-type: none"> ●1人当たりの出生率の低下 ●晩婚化による高齢出産の増加 ●育児不安などによる児童虐待の増加 ●小児医療への支援 ●休日医療体制 ●医療機関の情報提供 ●虐待予防 ●障害児への支援の充実
教育について	<ul style="list-style-type: none"> ●子どもの減少による子どもの社会性の低下 ●「食育」の推進 ●心の教育 ●乳幼児とふれあうことの大切さ
仕事と家庭の両立について	<ul style="list-style-type: none"> ●経済状況の悪化 ●働き方の見直しによる仕事と生活の両立 ●共働き世帯の増加による保育ニーズの拡大 ●学童保育の利用増加 ●職場環境の改善 ●男性の家事、育児参加の促進
生活環境について	<ul style="list-style-type: none"> ●都市化の進展による危険箇所の増加 ●バリアフリー環境などが不十分 ●子どもが安心して遊べる場の整備 ●公園の遊具などの管理 ●地域や学校ぐるみの防犯対策 ●通学路の安全確保